



## 匠の技にまなぶ

昼夜の温度差に風が立ち、園庭の梅も花弁を広げながら、旅立ちそして門出の時へと季節は動いていきます。

園内では、はなぐみ(2歳児)が、かぜグループ(3〜5歳児)へと合流、とり(5歳児)が、竣工したての新棟の部屋へと移動し、次年度へのウォーミングアップを始めます。

今年度は修繕工事といっしょに歩んだ一年でした。とりさんたちの保育にギリギリで滑り込んだ新棟は、古民家をイメージしデザインしました。本格的にとまではいきませんが、梁、鴨居、長押、障子、襖、漆喰(読み方とその場所、わかりますか?)など日本家屋独特の意匠(形や配置、色調、質感)をこの時期の子どもたちにも感じておいてもらいたいと思いました。2階部分は多目的に、1階部分は今まで会議室の片隅で実施していた「子育て広場」を専用スペースで展開していきます。

本園舎の修繕にも手直しや機能性向上の他にひとつのテーマがありました。それは

「音と灯」。これは、従来の保育施設の建築ではあまり顧みられてこなかった点です。

保育園のように空間の広い建物に反響音はつきもので、そのため人が集まるに従ってその音量がさらに増幅されてしまいます。そこで天井には吸音効果の高い特殊な天板を導入したというのが「音」の話。

次に「灯」とはつまり照明ですが、夕刻以降も続く園生活では、大事な要素です。火↓白熱球↓蛍光灯↓LEDと文明と共に進化した過程は、一方で「灯」から色味と陰影を奪う歴史でもあったような気がします。色が自然に見える太陽光(白色光)に近づけるといふ意味はあったのかもしれないが、それは私たちから「夜」を奪う事でもあったように思うのです。昼夜の繰り返しで営まれてきた我々の生活は、夜は夜らしく過ごす事が翌日への活力へと繋がっていたような気がします。灯を「火」へと戻していく…そんな思いを込めて赤みのある「電球色」にこだわっています。

さらに夜を日中に近づけようとする世の流れは、部屋全体を均一に照らす全体照明へと進みましたが、裸電球一個だった時代、人はその陰影の濃さに夜の深まりと1日の

終息を感じながら、一番明るい場所へと自然と身を寄せ合って過ごしていました。こうした光の「濃淡」がもたらす私たちの行動や感情への働きかけを期待して、広がり小さい部分照明（スポットライトやペンダントライト）を取り入れました。24時間営業、夜型社会の広がりとともに「昼を延ばす事」に慣れてしまった私たち大人にとつても、その使いこなしには少し慣れが必要なのかもしれませんが、新たな環境作りに挑戦してみたいと思っています。

修繕期間は、園内を出入りする多くの職人たちと過ごした一年でもありました。彼らとのやり取りを通して、既存の建物を「いじる」というのは、新築よりも数倍の工夫と技術がいることを改めて知りました。

既存の建物に馴染むようにうまく建てつけていく事を、彼らは「収まり」と呼びます。私たちは「収まりのよい」出来栄えの部屋を当たり前のように使つていきますが、壁を一枚はがしたその裏側には、幾重もの知恵と技が隠されています。ただ、私たちに「収まりの悪い」物を横に並べてみない限り、その本当のこだわりや価値を十分に感じ取れないのかも知れませんが。

なるほどこれは、先ほどの園内の環境も同じなのかなと思います。人の生きる環境はひとつで、2通りの生活を営んだ結果を並べて比較することはできません。その影響はあるのかもしれないけれど、はっきりと確認しにくいのが「環境」。油断ができないのです。だからこそ、効果のわかりやすさを超えて、あえてこだわっていく必要があるように思うのですが、あの職人たちのように。

お上に贅沢を禁じられた江戸時代の町民たちは、見えない着物の裏地に派手な図柄をあしらって楽しんだと言います。こんな「粋」な保育園になっていきたいものです。日本っていいな。

園長 折井誠司

カレンダー	
3月	1 (火) 発育測定 (012)
	3 (木) 誕生会 (ひな祭り) 発育測定 (5)
	8 (火) お別れ会
	9 (水) 発育測定 (34)
	10 (木) 乳児健診
	12 (土) 卒園式

## 懇談会にて

たくさんのご参加ありがとうございました。全体集会の場では、利用者調査結果の速報（総合的に97・3%のご家庭に「満足」以上の評価を頂きました。）、次年度から認可定員が110名となる事、基準保育時間が8時30分〜4時30分に変更となる事、運動会が土曜日の開催（10月1日を予定）となる事などを説明しました。

その後、先に書きましたように、今年度実施してきた大規模修繕について、こだわった点や設備環境を通した新たな挑戦や実験的な試みなどを、画像を交えながらご紹介しました。

一年を通じた修繕工事へのご協力、ありがとうございました。

- 編集 誠美保育園
  - 編集人 折井誠司
  - 発行人 折井誠司
  - 印刷所 誠美保育園
  - 発行所 社会福祉法人 誠美福祉会
- 〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-1-2  
 電話 042-6775-1555  
 ファックス 042-6777-5643  
 Email seihohokuen.jp  
 http://hokuen.jp